記者発表資料

水資源機構

令和７年６月２６日
独立行政法人水資源機構
木曽川上流ダム総合管理所

岩屋ダムで防災操作を実施

～ ダムの効果で下流河川の水位を約2.3m低減～

独立行政法人水資源機構が管理する岩屋ダムは、６月２３日からの降雨により増水した河川水の一部を一時的にダムへ貯め込む「防災操作」を行いました。

この防災操作により、岩屋ダムの下流約９．３kmにある東沓部地点では、ダムが無い場合と比べ河川水位を推定で約２．３０ｍ低減できました。

【防災操作の概要】

木曽川水系馬瀬川の岩屋ダム流域では、６月２３日に総雨量８２．０mmの降雨を記録しました。

この降雨により岩屋ダムでは、最大流入量毎秒約５４７立方メートルの時に、約７０％に相当する毎秒約３８４立方メートルの水をダムに貯留し、合計で約４４７万立方メートルを一時的に貯留することで、河川水位の上昇を抑える防災操作を行いました。

※今回の発表は速報値であり、数値等は今後の調査により変わることがあります。

配　布　先　：　中日新聞社萩原通信局　朝日新聞社高山支局
岐阜新聞社下呂支局　毎日新聞社岐阜支局
読売新聞社下呂通信部　CCN下呂支局

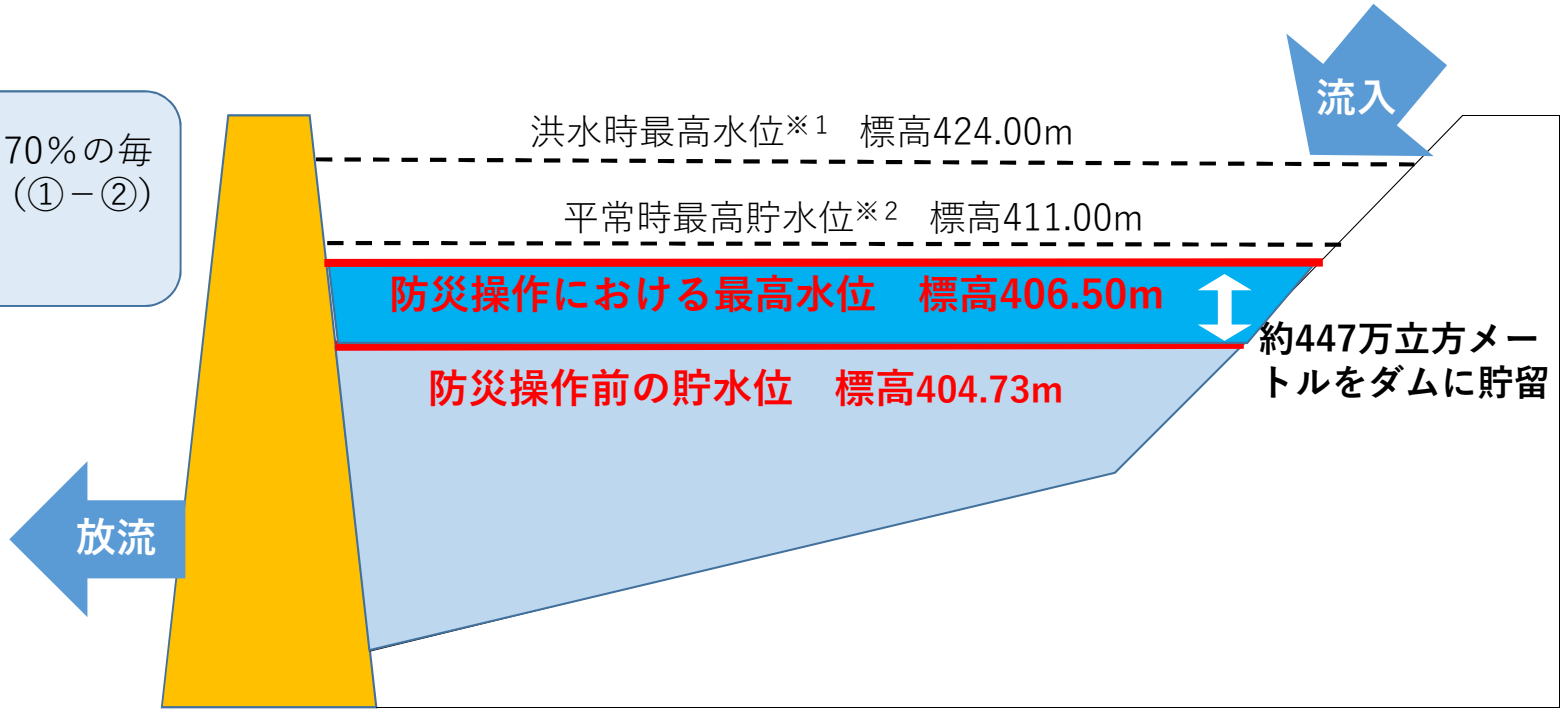
お問合わせ先 ： 木曽川上流ダム総合管理所 総務課長　福嶋
住　所：〒509-1602　岐阜県恵那市東野字花無山2201-79
電　話：０５７３－２５－５２９５
HPｱﾄﾞﾚｽ：https://www.water.go.jp/chubu/kisojoryu/index.html

令和７年６月２３日における岩屋ダムの防災操作（イメージ図）

ダム防災操作 YouTube 動画

【流入量】
ダムに流れ込んだ水の量
①最大流入量　毎秒約５４７立方メートル

最大流入量のうち、約70％の毎秒約384立方メートル（①－②）をダムに貯めました。

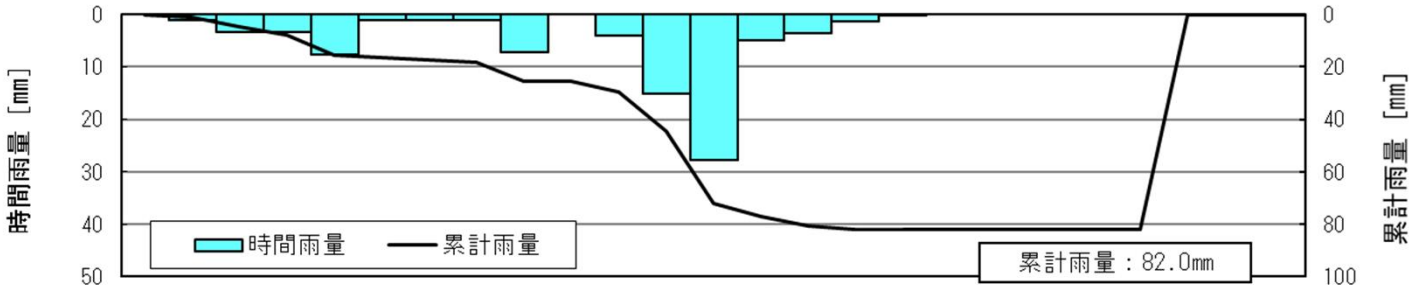


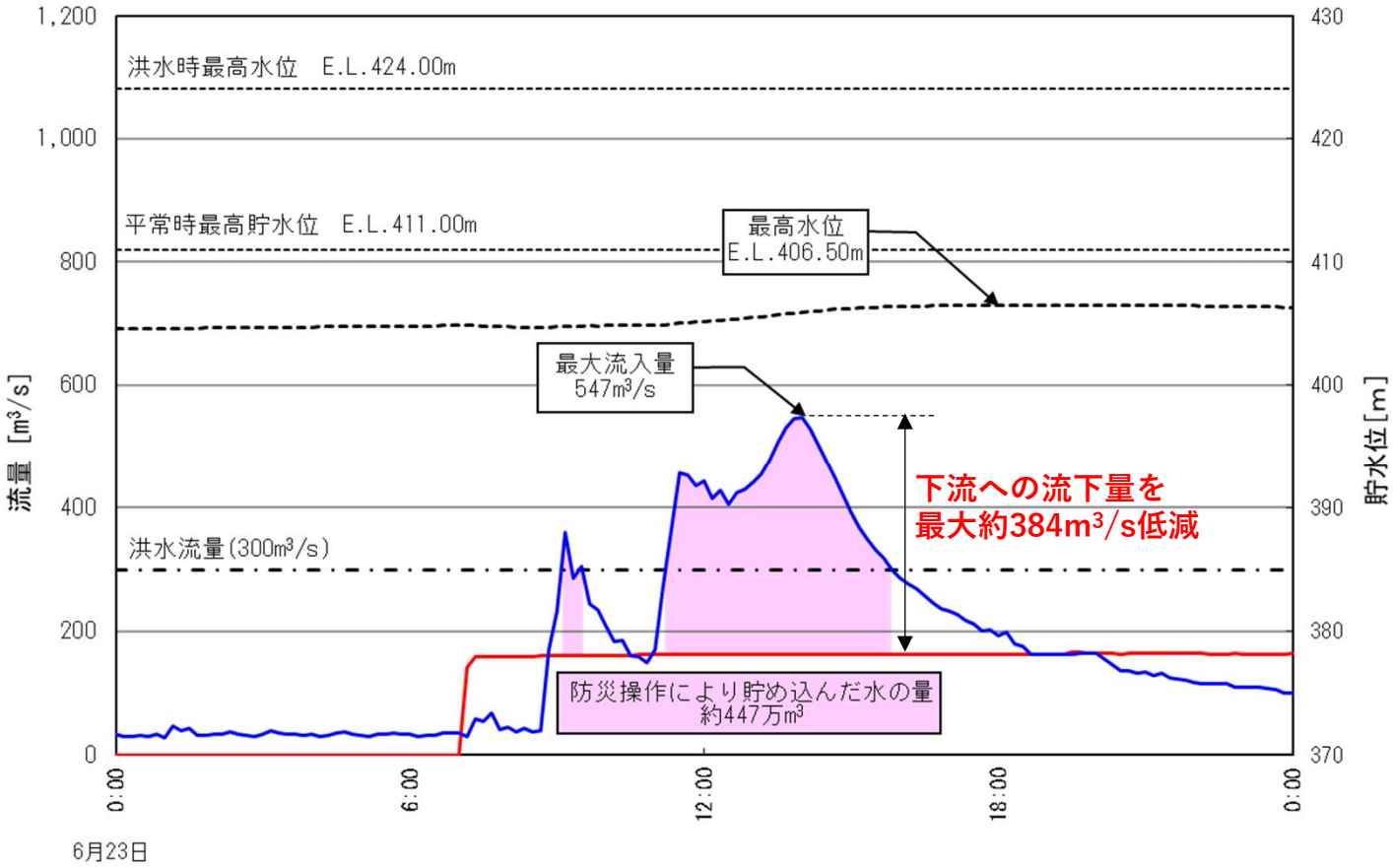
【放流量】
ダムから下流河川へ流した水の量
②最大流入時の放流量　毎秒約１６３立方メートル

※１　洪水時最高水位　：洪水時にダムによって一時的に貯留することとした流水の最高水位
※２　平常時最高貯水位：平常時にダムによって貯留することとした流水の最高水位

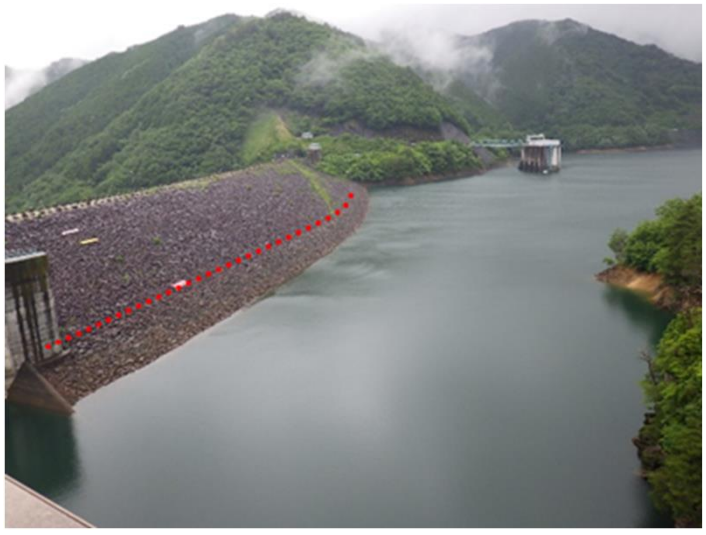
以降の資料では、「標高○m」は「E.L.○m」、「毎秒約○立方メートル」は「○m^3/s」と表記します。
今回の発表は速報値であり、今後の調査により数値等が変わることがあります。

流域平均降水量及び岩屋ダムの状況





岩屋ダムの貯水状況



平常時最高貯水位
(E.L..411.00m)

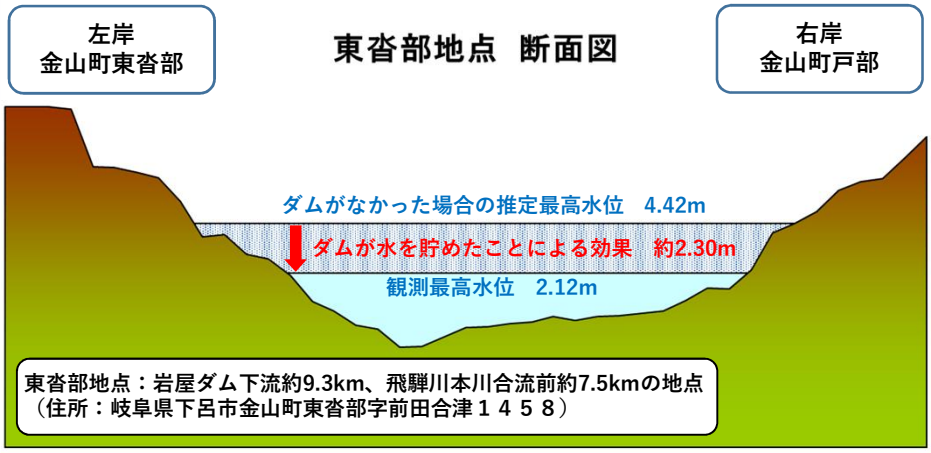
6月23日　16時30分頃の状況（防災操作後）
（約1.8mの貯水位上昇）

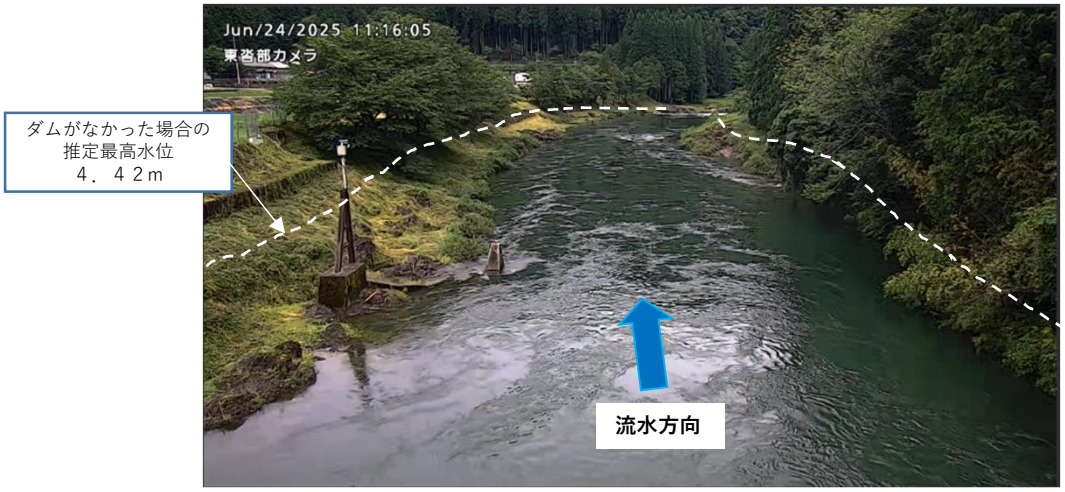
防災操作によるダム下流河川水位低減効果

・岩屋ダム下流（東沓部（ひがしくつべ）地点）の最高水位は2.12mでした。

・岩屋ダムがなければ、東沓部地点の水位は4.42mまで上昇したものと推定されます。

・岩屋ダムがあることで、防災操作により下流河川水位を約2.30m低減させる効果があったと推定されます。





6月24日　11時頃の状況（水位2.04m）

参考　平常時の状況（水位1.12m）